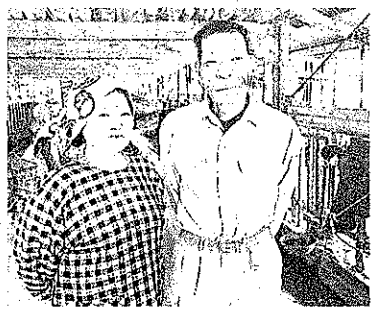


自白重視「犯人仕立てる危険」

「共謀罪」志布志事件の元被告懸念

「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ組織的犯罪処罰法改正案は、犯罪を実行前の計画段階で処罰するため、物証が少なく自白重視の捜査になる、との指摘がある。2003年の鹿児島県議選をめぐる冤罪事件「志布志事件」で無罪となった元被告たちは、取り調べて虚偽自白を迫られた自らの体験から「強引な捜査が行われるのでは」と危惧する。



藤山忠さん、成美さん
夫妻、鹿児島県志布志市、大久保真紀撮影

「共謀罪」ができた
ら、いま以上に怖い社会に
なる」

鹿児島県志布志市の酒造
会社社長、中山信一さん
(71)は14年前、県議に初当
選した直後に逮捕、起訴さ

「犯人」を仕立てる危険が
ある」と感じる。
志布志事件では、警察か
らは「自白」を迫られ、否
認すると395日間勾留さ

れた。会合を開いて有権者
に現金を配った公職選挙法
違反(買収)の疑い。裁判
でアリバイが認められ、判
決は、会合自体が存在しな
い「架空の事件」だったこ
とを示唆。起訴された12人
全員の無罪が確定した。

「共謀罪」の国会審議で
政府は「一般人は対象外」
「裁判所による令状審査が
機能しており、恣意的な運
用はできない」などと答弁
している。ただ、一般人か
どうか、嫌疑の有無などの
判断をするのは捜査当局
だ。中山さんは「一度決め
れば、あらゆる手段を使っ
て、描いた筋書き通りに

れた。取調官は「認めなけ
れば娘も息子も逮捕する」
などと怒鳴った。ともに逮
捕された妻が自供したので
罪を認めるように、と迫ら
れたこともある。心が折れ
そうになったが、否認を貫
いた。後で妻は自供してお
らず、取調官がうそをつい
ていたことを知った。「警
察はシナリオを書いたらあ
の手この手で認めさせよう
とする。自分に降りかかっ
てきてからでは手遅れだ」

志布志事件では6人が、
捜査側に強要されてうその
自白をした。そのひとり、
藤山忠さん(69)は逮捕前に
14日間、約138時間事情
聴取された。逮捕後も含め
ると、取り調べ時間は計5
38時間。結局、虚偽の自
白をし、容疑を認めた。
「いくらやっていないと言
っても、警察は聞く耳をも
たなかった。『共謀罪』で
政府が『恣意的な捜査はし
ない』『適正に運用する』

と言っても信用できない」
元被告以外にも多くの住
民が「任意捜査」の名のも
とで厳しい取り調べを受け
た。同市でホテルを経営す
る川畑幸夫さん(71)は「ち
よっと話を聞かせて」と連
れていかれた警察署で、朝
から晩まで取り調べを受け
た。「法案を成立させるな
ら、任意の段階から取り調
べを全面的に可視化し、す
べてを録画・録音するべき
だ」(編集委員・大久保真紀)